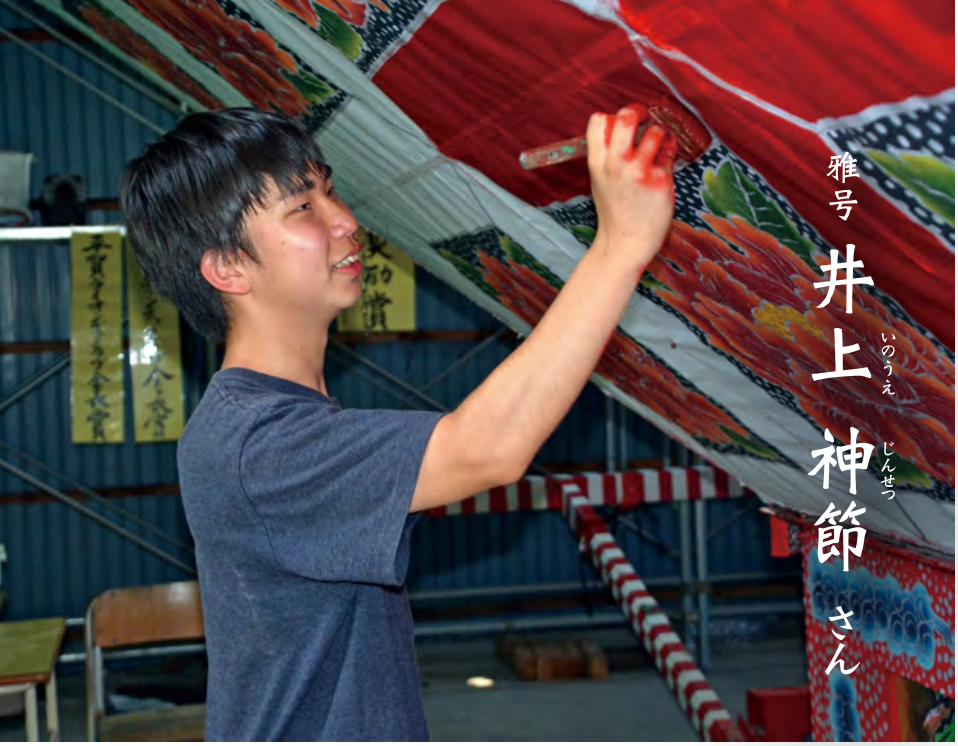

雅号 井上神節さん

※雅号とは…画家・書道家などが本名以外につける風雅な別名。

クローズアップ hirakawa

ひらかわ ねぷたびと

「ねぷたの絵を描きたくて ここにきた」

昨年から柏木農業高等学校のねぷた絵を描いている、同校３年生の井上さん。小学校３年生の時に、弘前市のねぷた絵師、故・佐藤大節さんの門下となりねぷたを習い始めたという。

最初は好奇心から始めたが、通ううちに師匠の話を聞いたり地域の人たちのねぷたに対する思いを感じ、どんどん魅力に入り込んでいった。

地元である弘前市内の高校への進学も考えていたものの、「いつか自分もねぷた絵を描きたい、ねぷたの勉強がしたい」という熱い思いから、ねぷた委員会のある柏木農業高等学校への進学を決める。

「周りにはないものを作りたい」

鏡絵のテーマも井上さん自身が決めている。今年の鏡絵は、周りのねぷたにはないものを作りたいという思いから、農業高校らしく“農業”を題材にした。

「ブータン農業の父」といわれる故・西岡京治氏を“農業神”として、大根を奪おうとしている天災を２つの“邪鬼”として表現し、光で追い払う光景が描かれている。

卒業して就職した後も兄弟子の下でねぷた絵は描き続けていくという井上さん。

「鏡絵は95センチ幅のロール紙を繋ぎ合わせて作っている。友達や周りの皆さんの協力があったからこそここまでこれた」と感謝の気持ちを表し、最後に今年のねぷたの見どころについて、「主人公もそうだけど脇役の表情もみてほしい」と笑顔で話した。

Profile

井上　奏さん

柏木農業高等学校　食品科学科３年／津軽錦絵節友会　会員

小学校３年生からねぷた絵を習い始め、「ねぷた絵を描きたい！」との思いで柏木農業高校へ入学を決めた熱いハートの持ち主。昨年から同校のねぷたの絵師を務め、自身初となる大型ねぷたの絵を手掛けた。